

## 学位論文審査結果の要旨

博士課程 甲 <del>乙</del>	第 号	氏 名	福家 直幸
審 査 委 員		主 査 氏 名	保田昌宏
		副 査 氏 名	中原 程子
		副 査 氏 名	浅田 祐七郎
[論文題名] Severe degenerative changes in cryptorchid testes in Japanese Black cattle  黒毛和種牛の潜在精巣における重度な変性			
[要 旨] 本研究では、黒毛和種雄子牛の潜在精巣においてみられた精巣低形成とは異なる萎縮した精巣遺残物について、その病態を明らかにすることを目的に調査した。実験には、黒毛和種雄子牛の潜在精巣で萎縮した精巣遺残物が認められた3例(A群)、萎縮がほぼ認められない3例(B群)、正常に陰嚢内に下降した精巣を有す5例(対照群)を用いた。精巣遺残物、潜在精巣および正常精巣は外科的に摘出し、病理組織学的検査及び免疫組織化学的検査を行い比較した。精巣摘出前に血液を採取後、血中テストステロンおよび抗ミューラー管ホルモン(AMH)濃度を測定した。その結果、肉眼的には、A群の精巣遺残物は極端に萎縮もしくは消失していたのに対し、B群および対照群の精巣では著変が認められなかった。組織学的に、A群では、全例で胚細胞消失、間質細胞消失、線維化及びヘモジデリン貪食マクロファージが、3例中2例でセルトリ細胞消失、精細管消失、石灰沈着、炎症反応及びリポフスチン貪食マクロファージが認められた。一方、B群では、全例で胚細胞とセルトリ細胞の減少、間質細胞の増加、精子形成異常が認められた。A群の1例のみ精細管が残存していたが、B群および対照群と比較してその直径と数は極端に小さかった。血中テストステロン濃度において、A群は検出されず、対照群はA群およびB群に比べ有意に高かった。一方、血中AMH濃度において、A群は3例中1例のみ検出され、対照群はA群に比べ高く、B群に比べ有意に低かった。免疫組織学的検査では、セルトリ細胞がみられたA群の1例、B群および対照群のセルトリ細胞はAMH陽性だった。黒毛和種雄子牛で重度に萎縮した精巣遺残物を調査した結果、人の精巣退縮症候群に類似する病態であることが明らかになった。			

## 最終試験結果の要旨

博士課程 甲	第 号	氏 名	福家 直幸
審 査 委 員		主 査 氏 名	係田昌宏
		副 査 氏 名	中原 桂子
		副 査 氏 名	浅田 祐士郎
[要 旨]			
博士論文の内容について口頭発表および質疑応答を行い、学位授与に値する内容であると判断した。			